

『すいぞくかんのおいしさん』

大塚 美加 || ぶん 齋藤 模 || え
福音館書店

すいぞくかんではたくさんのいきものが暮らし、そのいきいきとした姿は訪れた私たちを楽しませてくれます。すいぞくかんの裏側では、いきものの生活や健康を支える人たちが、がんばって働いています。

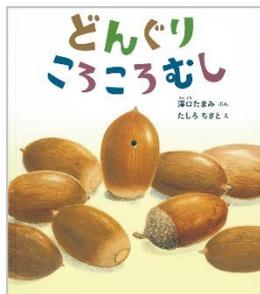
次にすいぞくかんに行くとき、違った見方で楽しむことができるでしょう。



『どんぐりころころむし』

澤口 たまみ || ぶん たしろ ちさと || え
福音館書店

林で見つけたどんぐりたち。家に帰ってビンに入れておいたら穴が開いていて、近くには…むしさん！そのむしさんをなでるとどんぐりみたいにコロコロと転がりました。小さな生命や自然との出会いに胸が高鳴ります。リズムカルなオノマトペも楽しめます。



『ちいさなちいさなヤクのガーター』

ルー・フレイザー || 文 ケイト・ヒンドリー || 絵
三原 泉 || 訳
岩崎書店

群れで一番小さなガーターは、早く大きくなりたくて仕方がありません。たくさん食べたり、運動したり、努力したのに小さいまま。めそめそ泣いていると、ガーターの力を貸してほしいと仲間がお願いにきます。小さいからできることって…？

“今の大きさが今の自分にぴったり”というメッセージに勇気をもらえます。

図書館おすすめブックリスト

2023年11月発行

編集・発行 砺波市立図書館



ココロふるえる本との出会いで フル充電!!

No.23 幼児むけ

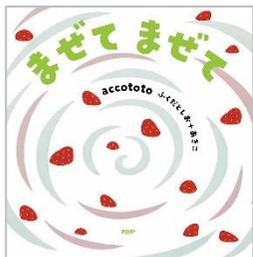


『うかぶかな？しずむかな？』

川村 康文 || 文 遠藤 宏 || 写真
岩崎書店

身の回りのいろいろなものを水の中に入れてみよう。ボールはうかぶ？ねんどはしずむ？形を変えたらどうなるかな？かぼちゃ、にんじん、ピーマンは、どれがうかんで、どれがしずむ？子どもの好奇心や驚きが伝わってくる写真絵本です。

想像したのと違っていたり、同じものなのに変化したり、家でもためしてみたくなりますね。



『まぜて まぜて』

accototo || 作 絵
PHP研究所

「いちご」と「ぎゅうにゅう」をまぜたら何ができるかな？本を大きくぐるぐるまわして、まぜてみよう！うーんとまぜたら、すてきなものができあがるよ。

親子で声を出しながら遊んでみてください。赤ちゃんから楽しめる参加型絵本です。



『おうちをみせて』

ももろ || 作 今泉 忠明 || 監修
白泉社

おとうさんとおかあさんが、新しいおうちを作ることを知ったなほちゃん。わくわくして夜眠れずにいると、ツバメがなほちゃんに巣の中を見せてくれました。ツバメ、アリ、カヤネズミ…いろんな生き物のおうちを見せてもらうちに、なほちゃんのおうちへの希望もふくらみます。



『ワニはどうしてワニっていうの?』

大塚 健太 || 作 うよ高山 || 絵
小学館

「ねえねえおとうさん。ぼくたち『ワニ』はどうして『ワニ』っていうの?」「ん～それはね」

さて、おとうさんはなんと答えるでしょう？親子の会話に思わずクスッ！言葉遊びと、ゆる可愛いタッチの絵に癒されます。ワニの親子のかけ合いを楽しめるので、読み聞かせにもオススメです。



『よるのどうぶつえん』

おかだ こう || 作 岡田 千晶 || 絵
フレーベル館

初めての夜の遠出で、おかあさんとはぐれてしまったこねずみは、においを頼りに動物園の中へ。人のいない夜の動物園には、昼とは違う世界が広がっていました。

こねずみは、おかあさんを探すため、勇気をふりしぼり動物たちを訪ね歩きます。



『あまがえるのたんじょう』

たての ひろし || 作 かわしま はるこ || 絵
世界文化ブックス

夜の水辺で、卵からおたまじゃくしが生まれます。彼らの周りには、みずかまきりやヤゴなど、危険な敵がいっぱい！

敵や困難を乗り越え、力いっぱい生きているあまがえるたち。そんな命の輝きが、みずみずしく描かれた科学ファンタジーです。



『みんなのいちねん』

たけうち ちひろ || 作
アリス館

ある家族の一年間の行事が、かわいい切り絵で描かれています。“ツリーの星は何個？”といった、簡単な探し絵を楽しみながら、季節の移り変わりを感じられます。

見方を変えて登場人物たちのサイドストーリーを追うと、違う楽しみ方もできます。